

＼ 文化的処方を経験しよう！ /

HELLO FUTURE!  
100年  
MUSEUM

東京藝術大学  
国立アートリサーチセンター

2025 2/13 (木) → 2/16 (日)  
11:00-18:00 (13日 13:30から/16日 16:00まで)

[開催場所]

TIB (Tokyo Innovation Base)

東京都千代田区丸の内 3-8-3



その一歩が、  
未来を動かす。

大阪・関西万博「イベント」に参加しています

# こんにちは、 100年後の未来

みなさんは、「アートが健康に役立つ」や「アートが幸せにつながる」なんて聞いたことがありますか？ 私たちの「ART共創拠点」では、アートや文化活動を通じて健康や幸福を高める「文化的処方」に取り組んでいます。絵を描いたり、音楽を聴いたり、友だちと一緒にものづくりを楽しむことで、ストレスが軽くなったり、心が明るくなったりすることがありませんか。簡単に言うと「文化的処方」とは、アートによって心や体を癒し、健康や幸福感を高めるための方法や、その仕組みのことです。



この「文化的処方」は、特に超高齢社会と呼ばれる時代の日本において、大きな力を持つと考えられています。高齢化が進むと、病気や孤独感といった課題が増えていきます。そんな中、アートや文化活動を取り入れることで、みんなが「より良く生きる」ためのヒントを見つけられるかもしれません。最近の研究でも、アートや文化が私たちの心と体にどんな良い影響を与えるかが明らかになってきています。

今回の「Hello Future! 100年ミュージアム」では、未来の健康のあり方を考える展示として、「文化的処方」のアイデアを体験できる場をつくりました。このプロジェクトは2023年から始まり、今回その成果として特別にプロトタイプ（試作品）をお見せします。

100年前の人々が、今の私たちの生活を想像することは難しかったでしょう。同じように、100年後の未来を生きる人たちの生活を想像するのも簡単ではありません。でも、少しでもその未来を思い浮かべてみませんか？



未来の健康や幸福のために、どんなアートや文化活動が役立つのか。私たちのプロジェクトがそのヒントになるかもしれません。この展示を通じて、アートや文化が持つ力を一緒に体感し、未来をより良いものにするアイデアをみなさんと共有したいと思います。みなさんの自由な発想で、「100年後の未来」を考えてみてください。それが、未来を生きる誰かの健康や幸せにつながる一歩になるかもしれません。

展示をもっと楽しむ  
キーワード

## 文化的処方

「文化的処方」とは、健康や幸福により影響を与えるアートや文化活動、そしてそれらを活かした社会的な取り組みのことです。たとえば、アートや文化活動を体験することでストレスが軽減したり、食欲が増して健康を保つ助けになることが、近年の研究で明らかになっています。こうした取り組みは、超高齢社会で問題となっている慢性疾患や孤独といった、医療や社会福祉の重要な課題に役立つとされ、欧米をはじめとする多くの地域で実践が進められています。

## ああとも（文化リンクワーカー）

文化リンクワーカー「ああとも」とは、作品を鑑賞する喜びや、何かを表現する楽しさを、身近な人たちと共有し合うつなぎ手であり、伴走者です。地域コミュニティと連携しながら、アートや文化資源を媒介に、人と社会、人と人をつなぎます。一人ひとりの「好き」や「得意」をきっかけに、それぞれが自分らしくいられるコミュニティを育むことを目指します。

## Hello Future! 100年ミュージアム

作品や地域の文化資源を楽しむことを通して、私たちが生きている世界と100年後の未来を想像する「文化的処方」のモバイル・ミュージアムです。地域の写真やアーティストの作品を鑑賞することをきっかけに、過去や未来に想像を広げてみてください。あなたが100年後の未来に遺したいものは何ですか？ このミュージアムではみんなの未来への思いをシェアしていきます。



# アートで心と体を整える

～文化的処方の可能性～

近年の研究により、アートや文化活動の体験が、ストレスを軽減し、健康維持に良い影響を与えることが明らかになってきました。高齢社会、慢性疾患、孤独といった、医療・社会福祉が抱える重要課題に活用できると、イギリスをはじめ各国でアートや文化活動の実践が進められています。また、そうした体験が、結果的に社会保障費の削減をもたらす事例も報告されています。ここでいうアートや文化活動は、絵画、彫刻、版画に加え、写真、工芸、デジタルアート、陶芸、舞台芸術、ダンス、映画、音楽、文学、料理、ガーデニングなど多岐にわたります。近年では、国内外で参加型の文化活動の場が増えており、まちなかのカフェや書店、図書館、美術館、博物館、劇場などでプログラムが実施されています。一方で、文化的体験の格差と健康格差に相関関係があることもわかってきました。今やアートや文化活動は余暇のプラスアルファの体験ではなく、人々の健康やウェルビーイングを保つために必要な要素であり、誰もが公平に楽しめる社会となる必要があるでしょう。私たちの「ART 共創拠点」では「文化的処方」という取り組みを広げることを通じて、健康の社会的格差を縮めることを推進していきます。

国立大学法人 東京藝術大学  
独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター

大阪・関西万博会場では本展を拡充して開催します。  
みなさまのご来場をお待ちしています。

## わたしとみらい、つながるサイエンス展 ～あなたは、未来をつくれる人～

開催期間 | 2025年8月14日(木)～8月19日(火)  
開催場所 | 大阪・関西万博会場(夢洲) EXPO メッセ会場  
主催 | 文部科学省



本企画は、JST共創の場形成支援プログラム「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」(JPMJPF2105)の支援を受けたものです。

# 展示

画家

上田 薫

うえだ かおる



1928年東京生まれ。東京藝術大学卒業後、抽象画家、グラフィックデザイナーとして活躍。1960年代後半に身近なモチーフを写真を用いて精巧に描き出す独自の手法を確立。2020年に心臓手術の麻酔の影響から認知症を発症、以前のような制作が困難に。リハビリを兼ねて好きなモチーフを色鉛筆などで描く新たな作風に挑戦中。

アーティスト

日比野 克彦

ひびの かつひこ



1958年岐阜生まれ。東京藝術大学在学中より作家活動を開始し、メディアとアート活動を融合する表現領域の拡大で注目を集める。現在、岐阜県美術館館長、熊本市現代美術館館長、東京藝術大学学長として、アートの新たな可能性を追求。企業や自治体との連携も積極的にを行い、「アートは生きる力」を研究し実践している。

川崎市

写真コンクールの作品



写真提供：  
川崎市市民ミュージアム

神奈川県川崎市では、1957年から長年にわたり、市民からの公募形式で写真コンクールを実施。2014年、市制90周年を機に、一部の写真をデジタル化。今回の展示では、その中から厳選された10点の写真を展示している。これらの写真は、デジタルデータを基に銀塩写真技術を用いて紙焼き写真として再制作され、展示されている。

# ワークショップ

## 100年クエスチョン! に挑戦しよう

文化リンクワーカー「ああと」と一緒に、作品を見て楽しむワークショップ。あなたの「100年クエスチョン!」の答えを教えてください。都度開催、当日直接参加できます。

## 空間楽器・ミュージッキング

自分のスマートフォンを使って参加する新しい音楽体験のミニワークショップ。たくさんのスマートフォンが連なり、みんなで大きな輪となって合奏を楽しみます。都度開催、当日直接参加できます。